

BRIDGEPLUS

関東労災病院医療連携情報(平成30年9月28日号)

Information

- クローズアップ診療 (眼科)
- 形成外科で喜ばれる治療 (前編)
- イベント情報(9月～10月)

クローズアップ診療 (眼科)

眼科に新たな部長が赴任し、網膜硝子体手術疾患の手術の体制が整いました。
今回は、診療機能の更なる充実に向けて取り組む眼科をクローズアップしました。

佐藤 新兵 (さとう しんぺい) 第二眼科部長



2005. 3 信州大学医学部卒業
2005. 4 横浜市立大学附属病院 眼科
2007. 4 横浜市立大学付属市民総合医療センター 眼科
2009. 10 国家公務員共済 虎の門病院 眼科
2015. 4 横浜市立大学 視野再生外科学 助教

専門は網膜硝子体疾患の手術治療で、当院でも9月より本格的に硝子体手術を稼働できる環境が整いました。

前職では黄斑上膜や硝子体出血から、裂孔原性網膜剥離、増殖糖尿病網膜症に至るまで幅広い疾患に対して、年間200例以上の硝子体手術を執刀し、良好な術後成績を得ております。

25ゲージを主体とした、小切開・無縫合による低侵襲手術を行っており、術後早期から視機能の改善が期待できます。また近年では黄斑円孔や網膜剥離の術後でも腹臥位期間は短縮されており、患者さんの負担も軽減されています。

手術適応に迷うような症例でも、患者さんの状況に合わせて治療方針をご提案させていただきますのでお気軽にご相談ください。

地域の方々に安心され信頼される医療をご提供いたします。

本誌へのご意見、ご要望がございましたら、
右記mailへお寄せ願います。地域医療連携の充実に役立てていけるよう努めてまいります。

発行人: 地域医療連携室
☎044-411-3131
mail: renkei4@kantoh.johas.go.jp

BRIDGEPLUS

形成外科で喜ばれる治療(前編)

～当院で提供する医療が患者様に満足していただけることは、患者様、紹介をいただいた先生方及び当院との信頼関係の充実にも繋がります。本号と次号において、形成外科医師が患者様の満足度を実感した医療を紹介いたします～
(形成外科部長 荻野浩希)



形成外科で取り扱う疾患のうち、患者様に特に喜ばれる3大治療は、

(1) 瘢痕形成術 (2) 眼瞼下垂手術 (3) レーザー治療です。今回は前編として、瘢痕形成術と眼瞼下垂手術をご紹介します。

瘢痕形成術

肥厚性瘢痕や瘢痕醜形、皮膚性瘢痕拘縮に対し皮膚の不足が無い場合には、瘢痕を切除後W形成術やZ形成術などの局所皮弁で再建します。形成外科的手術で瘢痕による痒み・痛み、整容面、皮膚の可動域が改善します。特に整容面にコンプレックスを持っていた患者様は、術後大変喜ばれます。

眼瞼下垂手術

後天性眼瞼下垂は、コンタクトレンズの使用や加齢の為に瞼板と眼瞼挙筋腱膜付着部が緩むために眼瞼が上がりにくくなります。また、患者様によっては上眼瞼皮膚が緩む眼瞼皮膚弛緩症を合併することがあります。眼瞼下垂の手術(挙筋前転術)は、余剰皮膚の切除と緩んだ挙筋腱膜を瞼板に縫合します。眼瞼挙筋の機能不全の場合は、瞼板と前頭筋間に大腿筋膜を移植することがあります。術前眠たそうな眼をして、眉毛を一生懸命上げておでこに深い皺を作っていたのが、術後眉が下がり、おでこの皺が目立たなくなります。目元が若返り、視界がひろがり世間が明るくなったと喜ばれます。欠点は、元々ドライアイがある場合、眼が開くようになったため、眼の乾燥症状が進行することがあります。

次号では「レーザー治療」をご紹介します。

イベント情報 地域医療連携講演会：定期開催予定(10月)

日時				内容
10月	18日	木	19:00～	講演：外科医療症例検討会
	25日		19:30～	講演：関東労災病院地域医療連携講演会 講師：日本病院会会長 相澤孝夫 先生 演題：「急性期医療への取り組み ～地域包括ケアとどのように向き合うか～」 会場：川崎市中原市民館

○ご不明な点、今後、希望する演題等がございましたら、遠慮なく地域医療連携室までお申し出願います。

(☎:044-411-3131 mail: renkei4@kantoh.johas.go.jp)



当院は地域のランドマークを目指す地域医療支援病院です。

BRIDGEPLUS